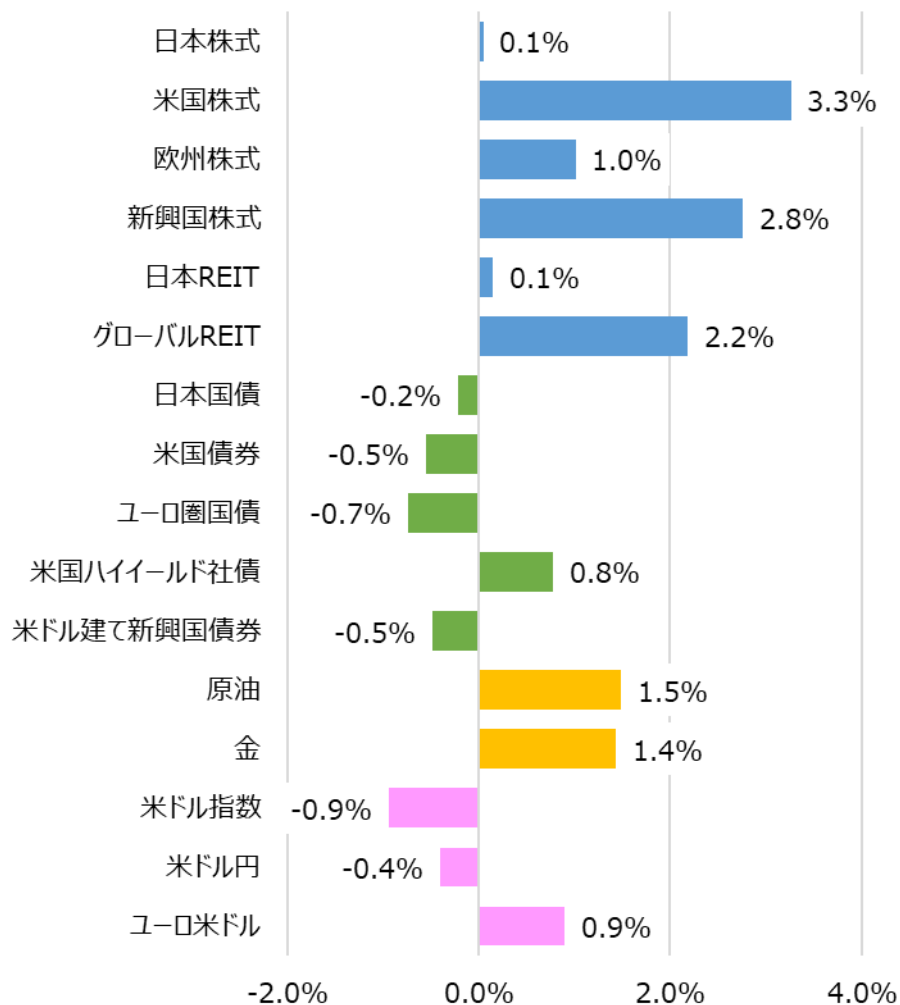




Weekly Market Review

期間：2020年8月24日～8月28日



【日本株式】

26日に中国軍が南シナ海に向けて中距離弾道ミサイルを発射したと報じられ、米商務省は南シナ海の軍事拠点建設に関わった中国企業に事実上の禁輸措置などの経済制裁を科すと発表し、対立先鋭化が警戒されました。28日後場には**安倍首相が健康不安から辞意を固めた**と報じられ、経済政策等の先行き不透明感から急落しました。

【米国株式】

主要株価指数が連日で最高値を更新するなど上値追いの展開となりました。**米当局が新型コロナウイルスの新たな治療法を緊急認可したと発表し、英製薬大手のワクチンに緊急使用許可を与えることを検討しているとも報じられました。米バイオベンチャーが開発中のワクチン治験で中高年齢層にも若年層と同等の効果が確認されたと発表したこと**もあって、景気の早期回復期待が高まりました。FRBが低金利政策の長期化を示唆したことや、住宅関連指標や耐久財受注などの経済指標が良好だったことも好感されました。

【欧州株式】

ドイツの4-6月期GDP確定値は速報値から上方修正され、独IFO（経済研究所）企業景況感指数は予想を上回る改善を示し、ドイツは従業員給与の補填を柱とする企業支援策の延長を決定しました。ただ、**フランス・イタリア・スペイン・ギリシャなど域内で感染の再拡大が顕著**になっていることが重荷でした。

【新興国株式】

米政府は**24日に米中政府高官が貿易合意の履行に関する電話会談を行ない、双方が進展と今後の行動について確認したと発表し、米企業が中国国内でウィーチャット利用を継続することは可能との見解を米政権が示しているとも伝えられ、米中関係悪化への懸念が後退**しました。また、FRBが緩和政策の長期化を示唆したことで新興国株式市場への資金流入が続くとの観測に繋がりました。

【日本REIT】

国内長期金利が上昇基調で推移したことや首相の健康不安から上値の重い展開でした。当期間中の日銀の買い入れ額は12億円でした。

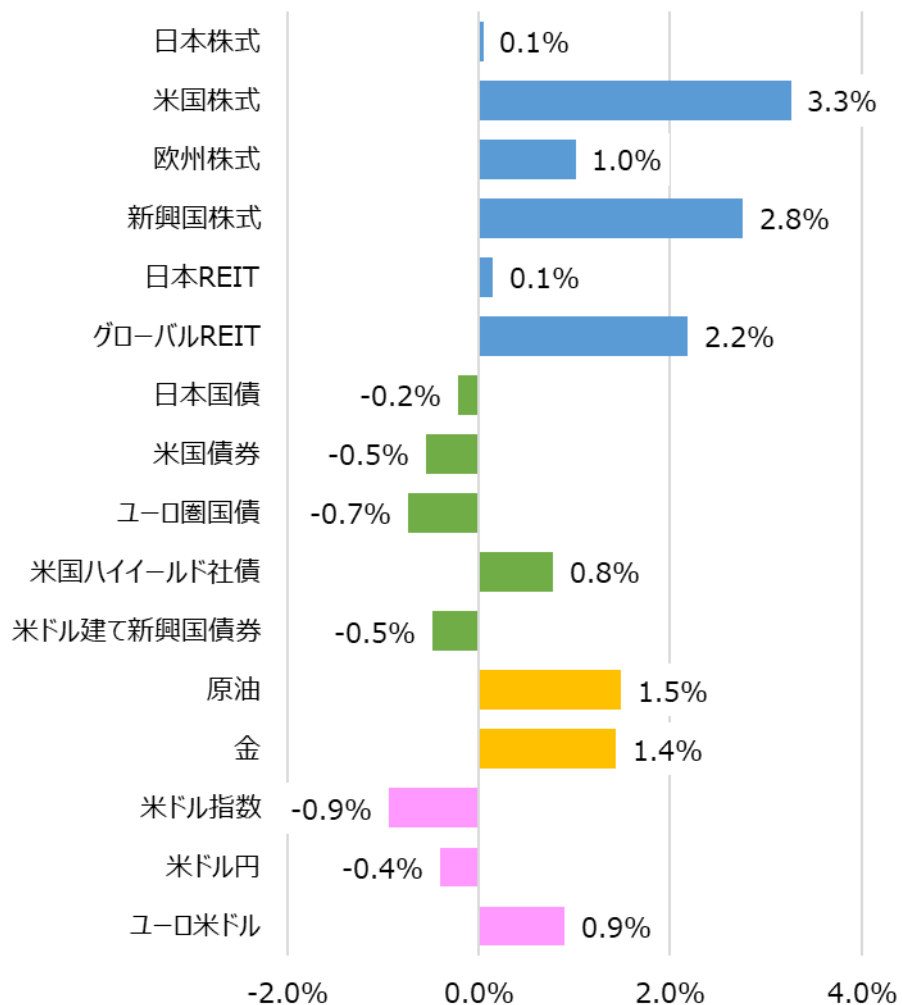
【グローバルREIT】

米新築住宅販売件数や中古住宅販売契約数は予想を上回る伸びとなり、住宅価格指数も堅調な伸びを示しました。ウイルス治療法やワクチンへの期待もあって、住宅用やリテールなどの米国REITが特に堅調でした。ただ、米長期金利の上昇基調が上値を抑えました。



Weekly Market Review

期間：2020年8月24日～8月28日



【日本国債】

2年と20年の国債入札は堅調な需要を集めました。3～5年と5～10年、25年超の国債買い入れオペは売り意欲の高まりが意識される内容でした。28日には政府と日銀の蜜月関係が不安定になるとの思惑から、**日銀の緩和政策の先行きに警戒感**が広がりました。

【米国債券】

2年国債入札や5年国債入札では堅調な需要が確認され、7年国債入札も無難な結果でしたが、米中関係の悪化懸念の後退に加え、良好な経済指標やワクチン開発の進展などから安全資産需要が減退しました。**注目されていたジャクソンホール会議でのパウエルFRB議長の講演を前に、FRBはインフレターゲットの柔軟化を打ち出し、FOMC声明文には「当面は2%超のインフレ率をめざす」と明記**されました。インフレ期待の高まりから長期ゾーン中心に国債利回りが上昇し、イールドカーブはスティープ化しました。

【ユーロ圏国債】

ドイツ経済指標の改善やウイルス防疫対策の進展、米中摩擦の緩和などから中核国債が売られ、周辺国債はイタリアなどの感染再拡大が嫌気されました。28日に実施されたイタリアの5年と10年の国債入札はやや低調な結果に終わりました。

【米国ハイールド社債】

米株式市場が上値追いの展開となったことやFRBの低金利政策の長期化示唆などから堅調に推移しました。

【新興国債券（米ドル建て）】

米長期国債利回りの上昇基調から軟調でした。隣国ベラルーシの政情混乱の悪影響が懸念されるロシアや、中東・中南米諸国などの下落幅が大きくなりました。

【コモディティ（金・原油）】

金は、経済正常化への期待や米長期金利の上昇基調から軟調な展開でしたが、**28日に米長期金利が名目・実質ともに低下し、米ドル安の進展もあって大幅に反発**しました。原油は、**メキシコ湾付近で発生した2つのハリケーンを警戒して湾岸の石油施設が操業を停止**し、需給が引き締まるとの観測から上昇しましたが、上陸した「ローラ」が勢力を弱め、石油施設の早期操業再開観測から徐々に売りが優勢となり、上げ幅を削りました。

【米ドル指数】

FRBが低金利政策の長期化を示唆したことから対主要通貨で米ドルが売られました。28日には**日本の金融政策への不透明感も相俟って米ドル売り円買いの動きが加速**しました。



当資料のお取り扱いに関する留意事項、使用している指数等について

当資料は情報提供を目的としてアストマックス投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は当社が信頼できると判断した情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料中に記載した内容、数値、図表等は、当資料作成時点のものであり、今後、予告なく変更することがあります。当資料で使用している各指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。なお、当資料のいかなる内容も将来の投資成果を示唆ないし保証するものではありません。

日本株式：TOPIX（東証株価指数）

米国株式：S&P500種株価指数（米ドルベース）

欧州株式：STOXX Europe 600種株価指数（ユーロベース）

新興国株式：MSCI新興国株式指数（米ドルベース）

日本REIT：東証REIT指数

グローバルREIT：FTSE EPRA/NAREITグローバルREIT指数（米ドルベース）

※文中に世界株式とある場合、MSCI All Country World Index（新興国を含む全世界株式指数、米ドルベース）をさします。

日本国債：FTSE日本国債指数

米国債券：ブルームバーグ・バークレイズU.S.アグリゲイト・フロートアジャステッド指数（米ドルベース）

ユーロ圏国債：ブルームバーグ・バークレイズ・グローバルアグリゲイト・ユーロガバメント・フロートアジャステッド指数（ユーロベース）

米国ハイイールド社債：ICE バンク・オブ・アメリカ・メリルリンチ米国ハイイールド・コンストレインド指数（米ドルベース）

米ドル建て新興国債券：J.P.Morgan 米ドル建て新興国債券コア指数（米ドルベース）

原油：CME上場のWTI原油先物取引の期近限月（1番限）価格（米ドルベース）

金：S&P GSCI CME金エクセスリターン指数（米ドルベース）

米ドル指数：ICE USが算出・公表する米ドルインデックス

出所：ブルームバーグ